みんないきいき 支え合って いつまでも安心して暮らせる まちづくり

子育て・子育ち編

○子育て環境の変遷

昨今、核家族化やつながりの希薄化等、家庭や地域を取り巻く環境の変化により、社会全体において子育て力が低下しています。

1950年代頃までは、産業の主体は農業であり、家族の形態は三世代以上が同居する大家族が主流で、家族、地域の人たちが助け合って子育てがされていました。

ところが、1950年代半ば以降、高度経済成長期には、産業構造の変化により核家族化が進み、男性は会社で働き、女性は専業主婦として家事・育児を担うという役割が課せられました。仕事で転居も増え、母親が見知らぬ土地で、頼る人もなく子育てせざるを得ない状況におかれることも多くなりました。そして、1970年代後半以降、徐々に景気が後退、女性の権利・自立を求める声と相まって、共働き家庭が増えていきます。しかしながら、家事・育児の役割は、母親に依存したままとなり、今なお母親に負担がのしかかっていることが少なくありません。

○現代の子育て･子育ちにおける課題

このような状況の中で、子育てを行っている家庭では、子育ての悩みや不安を抱えることも少なくありません。子どもの行動や障がいに関すること、母親自身、父親自身に関すること、社会的なことなどが複雑に組み合わさり、悩みをより深刻化させることもあります。

例えば、育児不安を抱いている母親（父親）が誰からも助言や支援を受けられない場合には、孤立し、大きな不安やストレスを感じるようになります。事態が悪化すると、母親（父親）に精神疾患が生じたり、子どもに対して苛立ちがぶつけられ虐待に至ることもあります。子どもは親に気を遣い、ひとりで悩んだり、過酷な状況に耐え続けることになります。

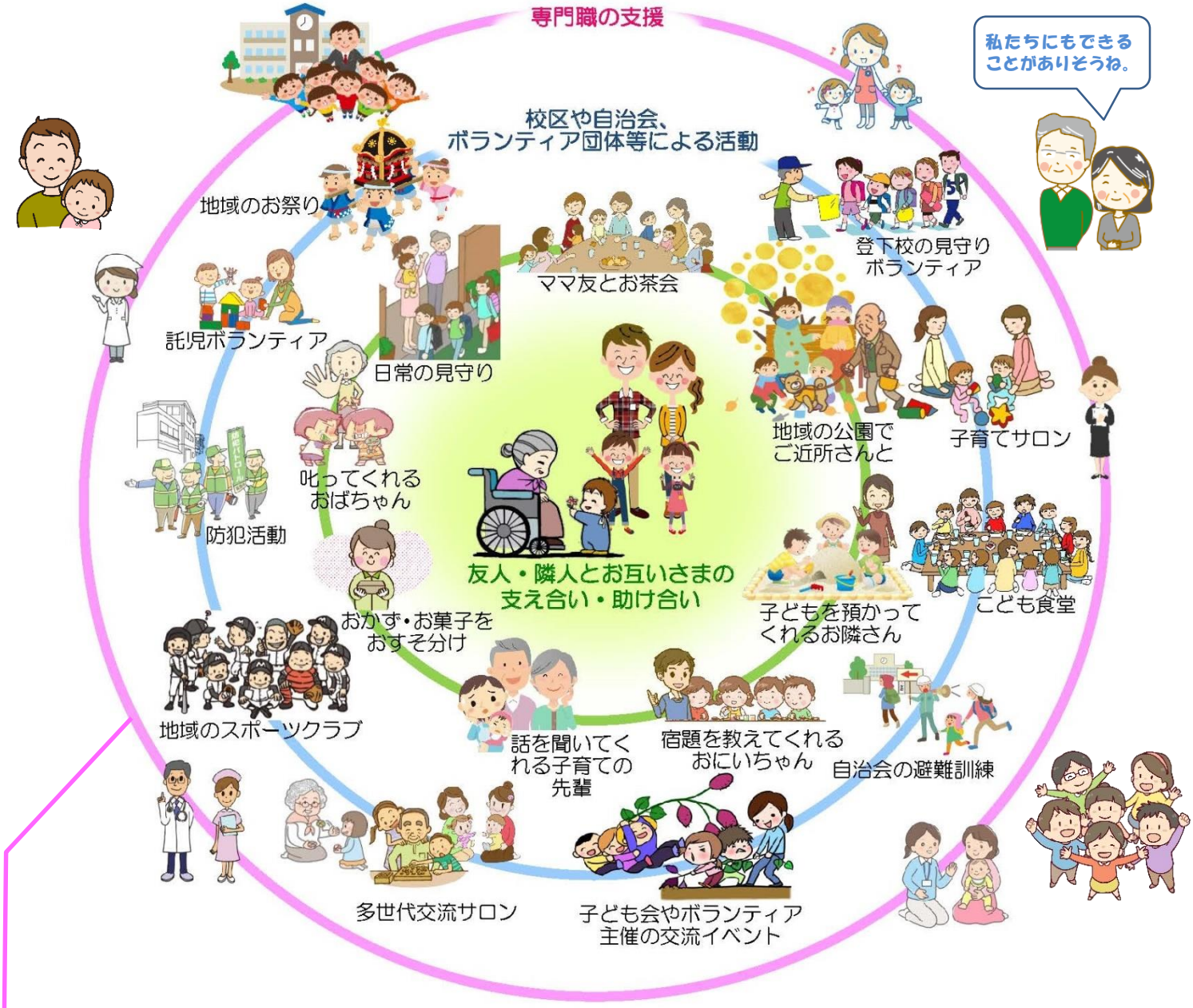
○地域のみんなで子育てを

昨今では、地域における公的な支援が充実してきました。しかしながら、子育てには、公的支援のみでは補いきれないような様々な困りごとがあることでしょう。そんなとき、地域の人たちの少しの手助けで、子育て家庭の負担が軽減されることも少なくありません。

また、子どもたちが、地域のいろいろな人とつながることは、子どもの健やかな成長を助けるだけでなく、気にかけてくれる人・手をさしのべてくれる人が身近に多く存在することで、たとえ何かの課題を抱えた場合にも、孤立することなく、早期に発見され、問題解決につながることが期待できます。父親母親にとっては、子どもたちが地域の人たちに見守られていることで、安心感を得られるのではないでしょうか。

（裏面もご覧ください）

たとえばこんな「支え合い」（子育て世代の場合）



- ○赤ちゃん訪問、健康診査
- ○ちびっこ広場
- ○地域子育て支援センター
- ○保育所・幼稚園・学校、認定こども園
- ○放課後児童クラブ
- ○ファミリーサポートセンター
- ○子育て相談、ＤＶ・ひとり親相談等の電話相談

等

あなたがイメージする「支え合いのまち」は、どんなまち？

支え合いを必要とするのは、子育て家庭に限ったことではありません。高齢のかた、介護している家族、障がいのあるかた、地域生活に戸惑う外国籍のかたなど、手助けを必要としている人がいます。地域のみなさんがつながり、お互いさまの助け合いで、誰もが安心して暮らし続けられる「支え合いのまち」について、話してみませんか。

社会福祉法人瑞穂市社会福祉協議会
瑞穂市別府１２８３番地　総合センター１階
TEL (058)327-8610　FAX(058)327-5323

平成３０年１１月版